

## ヤングケアラー支援 深谷市の取組状況

### 1 国・埼玉県・深谷市のヤングケアラーの実態

アンケートについては、国や埼玉県の調査と並行しながら独自に実施しました。調査は質問項目を厳選したため、単純に国や県と比較はできません。しかし、個別の聞き取り調査を含めた独自の3段階調査により、ヤングケアラーの実態により迫っていると推察できます。

表 1

調査実施年度	国		埼玉県	
	対象	世話をしている家族が「いる」と回答した割合	対象	世話をしている家族が「いる」と回答した割合
令和3年度	小学校6年	6.5% 回答者数9,759人	調査未実施	
令和4年度	調査未実施		調査未実施	
令和5年度	調査未実施		調査未実施	

調査実施年度	深谷市		
	対象	世話をしている家族が「いる」と回答した割合	(内)*市独自の3段階調査の結果ヤングケアラーの可能性が高い生徒
令和3年度	中学校1～3年	8.3%(290人)	0.76%(27人)
令和4年度	中学校1年	10.1%(117人)	1.48%(18人)
令和5年度	小学校6年	16.2%(182人)	0.71%(8人)
	中学校1年	10%(105人)	0.5%(5人)
		<b>回答者数 3,532人</b>	
		<b>回答者数 1155人</b>	
		<b>回答者数 1121人</b>	
		<b>回答者数 1006人</b>	

\*第1段階：児童・生徒のFormsによるアンケートへの回答 第2段階：担任によるチェック(アセスメントシート) 第3段階：個別の聞き取り調査

### 2 深谷市独自の3段階調査による詳細な実態把握 (別添資料あり)

#### 【令和5年度の例】

表1は世話をしている家族が「いる」と回答した割合ですが、世話をしている＝ヤングケアラーではありません。世話をしていると回答した中には、過度な負担ではないお手伝いレベルの世話も含まれているため、深谷市は独自の3段階調査により、ヤングケアラーの可能性が高い児童・生徒を明らかにしました。

#### 【小学校6年生】

- 第一段階：アンケート調査 (1121人)
- 第二段階：担任によるチェック (182人)
- 第三段階：個別の聞き取り調査 (89人)

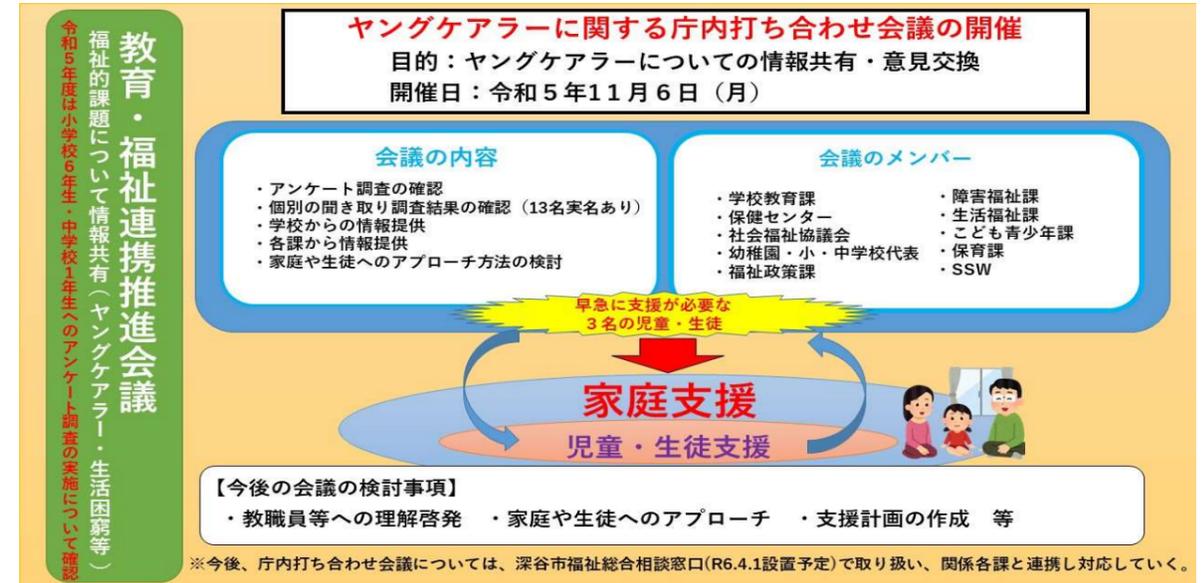
#### 【中学校1年生】

- 第一段階：アンケート調査 (1006人)
- 第二段階：担任によるチェック (105人)
- 第三段階：個別の聞き取り調査 (47人)

3段階調査の結果、**令和5年度は小学校6年生8名(0.7%)、中学校1年生5名(0.5%)**が世話の負担が大きく、学校で見守る児童・生徒、SSW(スクールソーシャルワーカー)による個別相談が必要な児童・生徒、関係機関につなげる必要のある児童・生徒となります。

### 3 関係各課による3段階調査結果の情報共有・意見交換

図 1



アンケート調査や個別の聞き取り調査の結果を教育部・福祉健康部・こども未来部の3部7課所による情報共有及び意見交換を令和5年11月6日に行いました。

- ・アンケート調査の結果、個別の聞き取り調査の結果の情報共有
- ・学校による家庭や本人の状況等の説明
- ・支援方針の検討

### 4 R5 アンケート調査(追跡調査)→関係各課による情報共有→実際の支援

#### 1年間の流れ

- 7月→小学校6年生・中学校1年生にiPadによるアンケート調査の実施
- 8月→学校教育課によるアンケート調査の分析
- 9月→担任による個別チェック・個別の聞き取り調査
- 10月→学校教育課による個別の聞き取り調査の集約  
→昨年度の追跡調査の実施  
→関係各課へアンケート調査・個別の聞き取り調査結果の報告
- 11月→**関係各課による情報共有・意見交換(図1)**
- 12月～実際の支援の開始
- 1月～支援状況の確認

### 5 ヤングケアラー支援に係るこれまでの取組状況

- ・更生保護女性会⇒会話をしながら食事を作り、提供する。
- ・障害福祉課、相談事業所による保護者との面談 家事支援(ヘルパー)の支給
- ・こども青少年課による児童・生徒の情報共有(要対協等)
- ・SSWによる家庭訪問、児童・生徒との面談等
- ・社会福祉協議会⇒フードパントリー、こども食堂の案内
- ・学校を中心に、本人の状況変化を感じたら随時連携し、家族の負担軽減に対応できるサービス等を情報提供する。